



① ホタルのエサとなるモノアラガイを手にとり、水中には、生き物がいっぱい。



② 毎年4月頃には白く可憐なミズバショウの群生が広がり、人びとの目を楽しませる。



③ 観察会では、子どもたちがホタルをやさしく包み込み、触れ合う。



④ 『NPO法人キウシト湿原・登別』のメンバーがキウシト湿原の植物などを丁寧に説明。



⑤ 春に南半球のオーストラリアから渡って来る準絶滅危惧種のオオジシギ。

課題となっております、「協働」作業は「継続しています」。

生き物同士のつながりを感じる湿原

「皆さんには、キウシト湿原に足を運んでいただき、実際に見て、その魅力を体感してほしいと思います。『草しか生えていない』と思われるがちな湿原ですが、何種類もの異なる植物が、日光を少しでも多く浴びようと競争し合うなど、生き物同士のつながりや物語があります。こういった物語を皆さんにわかりやすく伝えていくことが、私たちガイドの大きな役目の一つだと思っています。貴重な植物のほかにも、その植物を取り巻く環境など、キウシト湿原全体の『生態系』を楽しんでいただきながら、住宅地にある立地を生かして皆さんの集いの場や憩いの場として利用していただけたらうれしいです」と堀本さん。

『登別の貴重な湿原を守りたい』、『子どもたちに登別の財産を残したい』。

堀本さんをはじめ、『NPO法人キウシト湿原・登別』のメンバーの思いは、このまちに住むわたしたち、そして、未来の子どもたちに向けられています。

キウシト湿原のこれから

湿原を適正に保全するためには、地下水の水位の安定や水質の保全、外来植物対策など多くの課題があります。

現在、市はこれらの課題解決のため、『NPO法人キウシト湿原・登別』や専門家とともに貴重な自然環境を有するキウシト湿原の適正保全に努めています。

さらに、市と『NPO法人キウシト湿原・登別』は、市民の皆さんにキウシト湿原の魅力や保全の必要性などを伝えていきたいと考え、自然学習の場や市民の憩いの場として活用を進めています。

これまでも、利活用の一環として、ミズバショウやホタルの観察会などを行ってきましたが、今後はさらにこれらの観察会に加え、子どもたちを対象とした水生生物観察会や市民とともに行う外来植物の駆除作業など、活用の幅を広げていきます。

キウシト湿原をはじめ、まちの豊かな自然を守り、未来へ手渡すためには、私たち市民一人一人の理解と行動が必要です。まずは、キウシト湿原に足を運んでみませんか。（キウシト湿原の詳しい情報は6・7ページに掲載しています）